

上海万博における日本の自治体の取組み ～富山県～

クレア北京事務所

5月7日（金）～8日（土）の2日間、上海万博を視察してきました。

今回の万博には、日本からは日本国として参加するほか、数多くの自治体も参加しています。この上海万博は各自治体が有する都市の魅力を世界に向けて広く発信する絶好の舞台であり、各自治体はそれぞれ趣向を凝らした展示、イベント等により魅力的な観光資源などをPRします。今回は、日本館のイベントステージにて開催された富山県によるイベント「富山県の日」の様子について報告させていただきます。

日本館のイベントステージは、展示ゾーンとは独立しており、万博期間中に計 13 の自治体関係のイベントが行なわれる予定となっています。この自治体関係のイベントの一番手として富山県のイベント「富山県の日」が、5月8日と9日の2日間にわたって行われました。富山県の雪から生まれる美しい景色と、雪から生まれる豊かな水の恵みをあらわす「雪景・豊水」をテーマとして、富山県の豊かな自然や歴史、文化、また併せて最先端のものづくり技術を有して成長を続けている富山県のアピールが行なわれました。当日は、多くの来場者のため入場制限がかかっていましたが、幸い早い時間に訪れたので 10 分程度の待ち時間で入場することができました。

満を持してイベント会場に入ると、まずは雪の大谷をモチーフにしたエントランスが来場者にインパクトを与えていました。雪の大谷を抜けて会場内に入ると、メインステージにおいて「櫛山獅子舞」や「せり込み蝶六踊り」といった伝統芸能が上演され、唄・音楽・踊りが多くの来場客を楽しませていました。また伝統芸能の合間で3面巨大パノラマスクリーンによる富山県の大自然の四季の映像を上映し、その美しい風景と迫力により多くの人々を魅了していました。



<「せり込み蝶六踊り」の様子>

また会場内には越中和紙、高岡漆器、井波彫刻などの伝統工芸品の展示と文化・歴史・産業・食・自然を紹介するパネルの展示が行なわれていました。文化の展示パネルでは高岡市出身の藤子・F・不二雄氏を紹介しており、「ドラえもん」や「忍者ハットリくん」といったおなじみのキャラクターが富山県のPRに一役買っていました。また「ドラえもん」の看板の前では、「富山県の日」スタッフ用の法被を着ての記念撮影が大変好評のようで、子供だけでなく大人もこぞって記念撮影を行なっていました。



<法被を着て記念撮影する来場者>

さまざまな展示の中で一番盛況だったのは、富山県の産業や先進技術を体験できるコーナーの「パロと遊ぶ体験コーナー」でした。「パロ」とは、南砺市のベンチャー企業「知能システム」のアザラシ型ロボットのことで、人に楽しみや安らぎなどの精神的な働きかけを行うことを目的に開発されたロボットです。パロは、視覚、聴覚、触覚、運動感覚などを有しており、ふれあう人や環境の状況を感じる心や感情があるかのような反応を見せます。体験コーナーには3体のパロが設置され、来場者のパロ！パ



＜パロとふれあおうと続々と集まる来場者＞

ロ！という呼びかけに反応して振り向いたり、なでると気持ちよさそうに尻尾を振ったり、カメラのフラッシュを浴びては瞬きしたりと、その本物の生き物のような反応は来場者を驚かせていました。

会場を出ると、「富山県の日」イベントステージ前には長蛇の列ができており、中国の方の日本に対する関心の高さを実感しました。

中国にとって今回の上海万博の開催は、2008年の北京オリンピック開催に続く世界的なイベントの実施となります。中国にとっての上海万博は、言うまでもなく国の威信をかけて成功させなければならないものであり、万博の成功と共に、上海のみならず中国全体の発展へとつながっていくでしょう。

この重要なイベントにおいて、多くの自治体が趣向を凝らした出展により万博を盛り上げると共に、より多くの人に日本そして日本の地方各地にも関心を持ってもらい、今後ますますの友好交流・経済交流の発展へとつながっていくことを期待したいと思います。

まだまだ上海万博も始まったばかり。今後もこの世紀の大イベントに注目していきたいと思います。